住まい活動助成

一般社団法人 働くしあわせプロジェクト

神奈川県川崎市

柿生の古民家をシェア型木工房にリフォームして地域住民の居場所をつくる活動

活動拠点の一軒家「自然堂（JINEN-DO）」の縁側で。子育て世代を中心に、幅広いメンバーが集う

神奈川県川崎市麻生区にある木造戸建の平家を拠点として活用する。周辺には住宅街が広がる

団体設立経緯

誰もが安心して暮らし、働くしあわせを感じられる地域共生社会の実現に寄与することを目的に、2012年に当法人を設立しました。

うつや引きこもり状態にある方たちと関わる中、公的支援制度を用いた問題解決に限界を感じて21年3月末に障がい福祉サービス事業を廃止。持ち寄る暮らしと、誰もがありのままの自分を表現できるコミュニティを目指し、事業所として活用していた民家を地域に開いて現在に至っています。

活動概要と活動対象範囲

神奈川県川崎市麻生区の住宅街にある「**自然堂（以下、JINEN-DO）**」を拠点としています。木のぬくもりと風通しの良さが心地よい平屋建ての一軒家です。現在、子育て世代が中心となって、暮らしの手仕事や子育てにまつわるサークル活動、季節行事に集い、キッチンでの珈琲焙煎体験、リビングでヨガ、和室でアロマ教室、離れで整体など様々な生業の場として活用しています。コミュニティの仲間同士でお互い助け合いながら、それぞれのペースで活動しています。

活動に至った理由や背景

JINEN-DOの北側にある6畳間の和室。これまで来場者の荷物置き場やおむつ交換に利用するくらいで、有効に活用できていませんでした。一方、JINEN-DOに集う子育てママたちには「幅広い年代の多様な価値観に触れながら子育てしたい」という願いがありました。そこで、この和室を木工房にリニューアルすることで、父親層やシルバー世代、小・中高生など、多様な主体にコミュニティに参画してもらえるようにしたいと考えました。

活動内容と成果

●地域のつながりで和室を木工房にリフォーム

北側の和室を木工房にリフォームするにあたり、リフォーム会社や工務店に外注するのではなく、資材調達から施工まで、できる限り地域の仲間に声をかけ、“つながり”の力でカタチにしていくことを心がけました。

自分たちのネットワークを駆使してリフォームを施した「シェア型木工房」。これまであまり活用されていなかった北側の6畳間を改修した

最初に声をかけたのは、以前JINEN-DOでマルシェを開いた際、木工のアート作品を出品していた女性です。隣町に住む彼女は自宅の一室を木工アトリエに改装し、地域に開放しています。その経験を活かしてもらおうと、彼女にリフォーム施工のリーダーをお願いしました。彼女の紹介でDIY好きの年配男性とつながることができ、彼が軽トラックを出し、ホームセンターで資材の購入から搬入まで手伝ってくれました。さらに、この男性は地域に埋もれていた中古の工具類を集めてくれ、自作の工作台とともにJINEN-DOに寄贈してくれました。

素人集団でリフォームするにあたり、特に床の施工に不安がありました。コミュニティの仲間の知人が工務店を営んでいると聞き、彼に問い合わせしたところ、偶然「ちょうど手をケガして休業中だから」と施工当日に現場まで指導に来てくれました。プロによる指導を受けられた上、彼がエアコンプレッサーと釘打ち機を貸してくれたため、大幅に作業時間が短縮され、無事に床の施工を終えることができました。

他にも、知り合いの大学教授に相談したところ、「コミュニティづくりに関心がある」という学生を紹介され、度々施工を手伝いに来てくれるようになりました。作業中、彼が「本をテーマとしたコミュニティをつくり、子どもたちに読み聞かせをするのが夢」と語ってくれたことをきっかけに、後日、彼の夢を応援すべく、コミュニティのお母さんと子どもたちに声をかけて、読み聞かせの会の開催に至りました。

本助成金があったからチャレンジできたことではありますが、“お金”よりも“つながり”の力に頼ることで、思いもよらない数々の副産物が得られました。今後、私たちが地域とともに育ち合っていく上で大変貴重な体験となりました。

●シェア型木工房のオープンと親子木工教室の開催

リフォーム施工に加え、本助成金を用いることで木工用の道具や備品、工作資材を一通りそろえることができました。また、広く地域の方を受け入れるにあたり、万が一のケガや道具の破損に備えて保険に加入。併せて、コミュニティの中心メンバーたちと「**シェア型木工房**」の運用について話し合いま

1. 2022年8月開催の親子木工教室では、参加者全員で1つの作品をつくり上げた　2.3. 夏休みにはメンバーの協力を得て、木工+自然素材のワークショップを開催した　4. 廃材を活用したガチャガチャで地域のイベントに出展しアピール　5.6. 廃材を用いて制作した棚や箱。本棚には読み終えた本が集まる

した。木工作は大きな音が出るため、他の部屋で開催される催しとの共存を鑑みて事前予約制にするといった利用方法を定め、その内容を反映させた案内パンフレットを作成しました。

リフォーム完了後には、3回にわたって講師を招いて親子木工教室を開催。この木工教室では狙い通り、これまでコミュニティの活動に参加が少なかった父親層や小学校高学年層の動員に成功しました。シェア型木工房のお披露目にもなりました。

本助成金を用いることで、「カホン制作」のような思いきった企画を組むことができました。その一方、ウッドショックなどの影響により材料費が高騰して、当初想定していた予算をオーバー。それでも、木工教室への参加特典として木工房の利用チケットをプレゼントするなどの工夫を重ね、参加費をもらうことで予算超過分をカバーできました。3回目のワークショップでは、参加者それぞれが作品をつくるのではなく、コミュニティのシンボルとなるようなアート作品をみんなで共同創作し、玄関前に設置することができました。

【第1回：6/26】親子で楽しむ木工教室（参加者：6組）

自宅の一室を木工アトリエとして地域に住み開きしている方を講師に招き、子どもが腰かけられるイスにもなる道具箱を制作するワークショップを開催しました。

【第2回：8/17】カホンをつくって遊ぼう！（参加者：5組）

第1回と同様、講師を招いて前半はカホンを制作、後半はカホン奏者にリードしてもらい、カホン演奏を楽しむワークショップを開催しました。

【第3回：8/31】みんなでJINEN-DOのシンボルをつくろう！（参加者：6組）

約120cm×170cm大のアート作品を共同創作するワークショップを開催しました。森をモチーフとした、コミュニティのシンボルとなるような作品が誕生しました。

●コミュニティ内外への広報活動

「シェア型木工房」のオープンを記念した親子木工教室の開催を皮切りとして、コミュニティ内外への広報にも力を入れました。制作した案内パンフレットを自由にお持ち帰りいただけるように玄関先に設置、回覧板に載せてもらうなど、地域を意識して取り組みました。

夏休みには、貝殻やサンゴ、流木など大小様々な自然素材を使って自由工作の機会を提供しているメンバーとの協働でワークショップを企画。木工で魚やクラゲなど海の生物を制作し、子どもたちに自然素材でデコレーションしてアート作品として仕上げる時間を楽しんでもらいました。

また、木工アトリエを地域に開いている女性から「木工で手づくりしたガチャガチャが子どもたちに人気」という話を聞き、廃材を用いてガチャガチャを制作。当たりくじとして木工房の利用チケットを入れて地域のお祭りに出店し、ブースに立ち寄った地域の方々にJINEN-DOの存在とシェア型木工房をアピールしました。

これらの活動をホームページやSNS上で広報したところ、近隣の保育園から「園児たちを対象に、クリスマスをテーマとした木工のワークショップを提供してもらえないか」という相談が持ちかけられました。夏休みの子ども向け企画と同様に、木工で30cm程の高さのクリスマスツリーを制作し、松ぼっくりやどんぐりなど自然素材をデコレーションするワークショップを企画。13名の園児たちに、思い思いの作品づくりを楽しんでもらいました。

1.「秋まつり」のためにみんなで制作したモニュメント　2.3. 木工作コーナーのワークショップでは、端材でつくった土台をペイントしたり飾りを付けたりして、オリジナルカスタネットを制作。オープン時に開催した木工教室の参加者や協力者のつながりが、この企画を形にした

●秋まつりの開催

11月には、メンバーたちの自己表現および仲間を集めるきっかけの場として、「**秋まつり ～みんな、特別なアーティスト～**」を企画しました。JINEN-DOでは木工作以外にも、竹細工や裁縫、歌、珈琲焙煎など、メンバーそれぞれの好きや得意を活かしたサークル活動や体験会を日常的に開催しています。それらを一同に持ち寄って、歌のステージやワークショップ、作品の展示、珈琲や焼き菓子の販売などで楽しい時間を過ごしました。

木工作コーナーでは、端材を活用してカスタネットの型を準備して、オリジナルカスタネットを制作するワークショップを提供しました。この企画は、親子木工教室に協力してくれたカホン奏者が販売していたオリジナルカスタネットにヒントを得たものです。利用した端材も、カホンづくりに参加した女性が、その後、友人とそのお子さんを連れて木工房を利用した際、余った木材をギフトしてくれたものです。

まったくの素人でスタートした木工作ですが、必要なアイデアや資材が数珠つなぎのように、次の活動につながっていく体験が印象的でした。

課題と解決方策

活動をいかに続けていけるかが課題です。なかでも人材面、資金面で大きな課題を抱えています。

現在、JINEN-DOで活動するメンバーは約半数が徒歩圏外に住む方で、電車などで通っています。運営スタッフを雇い入れる資金余力もないため、主に徒歩圏に住むメンバー有志が交代で、無理のない範囲で対応していますが、毎日オープンするのは難しい状態です。また、子どもの進学や移住などの環境変化により、関わる頻度が減る、もしくは関われなくなるメンバーも少なくありません。

近隣住民にとって必要不可欠な「**暮らしのコモンズ**」としての機能を高めていくことが、こうした状況の中で活動を継続していくためのカギを握ると思います。近所を中心に裾野を広げつつ、参加者から主催者、さらに運営者へと関係性を深めていく導線や働きかけも必要だと考えています。また資金面では、共に地域づくりを進めていける他の団体と場所を共有し、維持費の負担を分散することも視野に入れ、交流を進めているところです。

今後の予定

参加者、主催者、そして運営者という、私たちの活動への関わり方が分かりやすく伝わるように整理して、ウェブサイトや案内パンフレットをリニューアルする予定です。また、シェア型木工房の他にも、循環と共有＝持ち寄る暮らしをキーワードに、読み終えた本を共有する「みんなの本棚」や、コピー機やラミネーターなどの利用・レンタルに対応することで、近所の「暮らしのコモンズ」としての機能を高めていきたいと考えています。

一般社団法人働くしあわせプロジェクト

2009年9月設立、12年5月法人化／メンバー数：14人／代表者：石田 和之（いしだ・かずゆき）

●〒215-0021　川崎市麻生区上麻生5-10-11

info@hatarakushiawase.net　hatarakushiawase.net/　@jinen_do

多様な人が集い、できること、してほしいこと、一緒にやりたいことを持ち寄れば、豊かな循環が生まれるはず。私たちは、ありのままの自分で生きられる“森のようなコミュニティ”づくりにチャレンジしています。